

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年11月14日
調査実施の時間	開始 10 時 分 ~ 終了15 時 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームみなづる 福島県
-------------------	--------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>佐藤光彦</u> ヒアリングを行った職員数 (4)人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770201143
法人名	社会福祉法人 会津若松市社会福祉協議会
事業所名	グループホームみなづる
所在地	福島県会津若松市河東町郡山字中小山25番地1 (電話) 0242-75-5501
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年11月14日

【情報提供票より】 (20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,900 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (10 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83.6 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武田総合病院 河東歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和風民家を改造した建物は襖や障子が残され「我が家」を感じさせる居心地のよいたたずまいであった。地域密着としての理念がしっかりと根付き地域にはなくてはならないホームになってきている。通所介護も軌道にのり地域から喜ばれている。管理者のリーダーシップで職員も利用者も笑顔で支援し、支援されていて温かい雰囲気であった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型の理念は重要事項説明書に書き加えられ、利用者の思いの把握や気づきをフォームに漸次書き込むなど改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員それぞれが自己評価を行ったものを全体で話し合いまとめ上げ、評価の意義を生かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	2ヶ月に1回定期的に開催され活発な意見交換がされている。夜間照明の改善や料理教室の講師の紹介、家族ボランティア結成の提案など建設的な意見が出され、具体化に結びつくなど運営に生かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議、カンファレンス、面会、みなづるの会議など家族の意見を聞く機会をたくさんつくっている。意見や要望が出されたことについては職員会議で検討し改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	社会福祉協議会、地域包括支援センター、学校、保育園、老人クラブなど地域との交流が積極的に行われている。ホーム近隣や消防署、派出所などにみなづるの通信を配布し地域はグループホームの特性を理解し認知している。

2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 熊谷まゆみ / 同行調査員氏名 大野恒夫

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で自分らしく生活できる介護」の理念を重要説事項明書やパンフレットに書き加え、ホーム内にも掲示し地域密着型サービスとしての支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者、家族、職員の目に付きやすいところに理念を掲示し、毎月の職員会議では理念を唱和し、日々のケアについて振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の民家や消防署、派出所には毎月みなづる通信を届けている。保育園や社会福祉協議会、地域の催し物に参加し、地域の人たちや老人クラブとの交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解しており、改善につながっている。職員一人ひとりが自己評価したものを全体で話し合い振り返りの場をつくっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催しホームの生活の様子が報告されている。活発な意見交換がされていて夜間の照明改善や料理教室の開催など具体的な提案や、改善につながっている。</p>		
6	9				
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月みなづる通信や担当職員からの文書で近況が報告されている。面会時には家族に利用者の生活の様子を伝えている。利用者に変化があれば電話で家族に状態を伝えている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や、みなづる会議、運営推進会議、家族会などで意見や要望を出してもらえよう気遣いしている。散歩だけでなくもっと歩いてほしいという家族の要望に応えるために利用者にはホーム内の施設係をお願いして歩いている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人にはグループホームの特性を理解してもらい法人内の異動は最小限になっている。今年度は非常勤職員1名が新採用であるがグループホーム理解のため新任研修を徹底している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員の希望を取り入れながら平均的に参加している。内部研修は年間計画を立て職員が毎月交代で企画立案実施し、士気向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入し、会津方部の管理者は毎月1回情報交換会を行い交流している。連絡会主催の研修会に職員は参加し同業者と交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で畑仕事や料理の仕方など教えてもらっている。食事やお茶の時間を職員と一緒にゆったりと過ごしながらか支えあう関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスや日々の支援のなかで引き出した要望や思いを、センター方式シートを使い最新のものになるよう記述し、職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや家族や本人との話し合いをもとに担当職員が計画の原案を作り、計画作成者と話し合い最終的に管理者の同意を得て計画を作成し全体のものにしていく。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のモニタリングのあとカンファレンスや状態の変化など話し合い、家族や利用者の意見を取り入れながら計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医は変わっていない。受診時、利用者の健康状態の情報を提供し、受診結果についても報告を受けている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合における対応にかかる指針」が作成されており本人や家族へ説明し同意を得ている。職員間でも終末期の対応について具体的な話し合いをしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄や入浴介助、食事介助などさりげなく行われ、誇りやプライバシーを損ねる対応は見られなかった。記録物は職員以外には目に触れないよう保管されている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は常に利用者が主人公であることを意識して利用者のペースで支援しており、外出や活動など利用者の気持ちに応える対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日夜開く献立会議で利用者と一緒に献立を決めている。「食事づくりをする」という計画が介護計画にも書き込まれている人もいて利用者と一緒に献立、買い物、調理、配膳、下膳が行われている。3食とも職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯で規制することなく毎日好きな時間に入浴できる。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を感じてもらえるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	センター方式シートを使用し生活歴や趣味、得意なものを把握し「家事を楽しく」「ふるさと訪問」など介護計画に取り入れ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩、食材購入、理美容、畑、誕生会、地域の催し物の見学、参加など外出の機会は多く作って出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	チャイムの設置で扉が開けば職員が気づくようにし日中は施錠していない。職員が外出するときは声をかけ合って、利用者が職員の気づかないうちに外出することを防いでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月夜間対応も含め防災訓練を行っている。地域包括支援センターを中心に災害時の拠点づくりを進めている。食材や毛布などの備蓄もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や内容は家族や本人と話し合い対応している。食事摂取量や体重が減少した場合は医師と相談してエンシュアリキッドの活用もした。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修のホームの良さがあり、居間や食堂は必要以上に手を加えず、襖や障子など残っており家庭的である。トイレや廊下、玄関周りなどは使いやすく改造されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や愛用品が持ち込まれていた。居室の使い方も利用者の状態にあわせて雰囲気は異なっていた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム みなづる

記入担当者名 管理者 佐藤 光彦

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。